

病院ナース

大学院進学

大学教員

病院副看護部長

人のチカラを引き出す看護を。臨床、研究、管理の立場から

武村雪絵 (東京大学医科学研究所附属病院 看護部長)

仕事の内容と醍醐味

看護は、安全で適切な医療を提供しながら、患者の意思を尊重し、その患者本来の生活に少しでも近づけることで、その患者の身体やこころもつ力、他者や社会とのつながりもつ力を引き出す仕事です。他者の人生に直接関わるので、自分の身体や感情の経験すべてがアンテナや道具になり、頭も体も五感も、第六感も使う、そして、人がもつ力に感動する、飽きない仕事です。今、私は患者に直接関わってはいませんが、看護部長として、看護職員を組織化し、キャリア開発や職業生活を支援しながら、より質の高い看護サービスを提供できるよう調整する仕事をしています。

私の進路決定のきっかけ

大学3年まで看護という職業に全く関心がなく、ずっと学校の先生になりたいと思っていました。中高生の頃、テレビで生命や人体、宇宙の特集が数多く放映され、すっかり魅せられたため、理科の先生になろうと決意しました。大学では、教員免許に必要な単位を取得しながら、人体の仕組みや健康を広く学べる保健学科に進学しました。そこで、卒業生の看護師の講義を聞き、看護も教育も人が道具で人が対象、他者の人生に関わり互いに成長できるなど共通点が多いことに気づき、多様な世代に関われる看護を選ぶことにしました。

仕事と家庭のバランスについて

臨床看護師から大学教員になり、育児休業中に病院(副看護部長)の話を受けました。娘が1歳2ヶ月のときに仕事に復帰し、研究職の夫の全面的な協力を得ながら毎日を過ごしています。結婚10年目に授かった待望の子供なので、どんなに慌しく大変でも、やっぱり楽しくて幸せです。以前は夜型人間でしたが、今は娘と一緒に午後10時半に眠り、早朝3~4時に起きて、夕食を仕込んだり、持ち帰った仕事をする超朝方人間になりました。週末に娘と公園やプールで思いっきり遊ぶことは、私自身のリフレッシュにもなっています。

進路選択に対してのメッセージ

人や講義、本など、一つ一つの出会いを大切にしてほしいと思います。そして、「おいしい」「すっきりした」「疲れた」「気持ちいい」といった身体感覚や、「うれしい」「悔しい」「恥ずかしい」「悲しい」といった感情をしっかりと味わいながら、自分のアンテナを磨いてほしいと思います。一つ一つの経験を大切に楽しむことが、将来、仕事を楽しみ、開拓する力につながると思います。

<武村雪絵(たけむらゆきえ)プロフィール>

- 1988年 大阪教育大学教育学部附属高等学校池田校舎卒業
- 1988年 東京大学理学部2類入学
- 1992年 東京大学医学部保健学科卒業(看護師・保健師免許取得)
- 1992年 東京大学医学部附属病院就職(脳神経外科・第一外科混合病棟看護師)
- <1995年 結婚>
- 1995年 虎の門病院就職(脳神経外科・神経内科・消化器内科混合病棟看護師)
- 1998年 東京大学大学院医学系研究科修士課程入学(看護管理学分野)
- 2000年 同修士号取得 同博士課程進学
- 2003年 東京大学大学院医学系研究科博士課程単位取得退学(2008年博士号取得)
- 2003年 東京大学大学院医学系研究科就職(看護学講座助手)
- <2005年 出産、育児休業>
- 2006年 東京大学医学部附属病院異動(副看護部長)
- 2011年 東京大学医科学研究所附属病院異動(看護部長)

